

平成30年度
京都市立嵐山東小学校

学校教育目標

育てよう 子どもの思い・思いやり

子どもたちが生きていく未来は、世界と大きくつながり、変化の激しい社会が予想される。子どもたちは、様々な問題を解決し前向きに生きていかなければならない。そこで、「友達や家族、地域の人々と関わりながら、自分の考えをもち、考えて行動する力」「相手の立場や気持ちを積極的に理解しようとする姿勢や態度」を育て、子どもたちの「主体性」と「社会性」の育成をめざす。

めざす子ども像

| | |
|--------------|---------|
| 自らすすめ、成し遂げる子 | <自主・自律> |
| 互いを認め、共に伸びる子 | <人権・共生> |
| 視野を広げ、磨き続ける子 | <関心・探究> |

「自らすすめ、成し遂げる」とは、自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために粘り強く取り組み、「やりきる」ことである。

「互いを認め、共に伸びる」とは、多様な他者の考えや立場を理解し、役割を果たしつつ、他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成していくことである。

「視野を広げ、磨き続ける」とは、多様な学習の場を経験する中で、感性を高め、豊かな人間関係を構築し、生涯にわたり学び続ける態度の基盤を培うことである。

めざす教職員像

組織的に取り組み、高め合う教職員

教育者としての職責を自覚し、確かな専門性と指導力を身に付ける。また、豊かな人間性と情熱をもち、子ども一人一人を大切にする。さらに、広い視野をもち、目標に向かって協働する。

めざす学校像

豊かな関わり合いを通して、
伝統と文化を受け継ぎ担う嵐山東小学校

地域の人をはじめ、様々な人と交流する体験活動等を通じた「社会に開かれた教育課程」を展開することにより、地域の伝統や文化の担い手であることに誇りをもち、次代と自らの未来を切り開く子どもを育て、「子どもたちも教職員も自らの成長を実感できる学校」を創る。



平成30年度の重点項目

学校教育目標の実現に向けて、京都市の「学校教育の重点」と本校の実態、これまでの取組の経緯を踏まえ、特色ある取組を展開する。また、中学校区を基盤に、子どもの実態や課題を踏まえて小小連携や小中連携を図り、9年間を見通した学習指導・生徒指導を推進していく。

◆ 広い視野と豊かな感性を育む「体験活動」

(多様な学習の機会や“ホンモノ”と触れ合う場)

◆ 責任と貢献を意識した「協働活動」

(自己の役割と責任を自覚する経験や達成感)

◆ 「自学自習」の習慣化

(主体的に学ぶ意欲や態度の育成)

(課題の選択や学習計画，家庭学習の積み重ね)